

知事より職員の方へ

<平成20年度の県政運営にあたって>

平成20年4月1日

知事 聖名昭彦

職員の方へ、平成20年度の県政運営にあたっての私の思いをお伝えします。

○「行動」、「具体化」の年度

「県民しあわせプラン・第二次戦略計画」が2年目に入る本年度は、計画を着実に推進し、「質の行政改革」をより確かなものにする、「行動」の年度、さらには「具体化」の年度だと考えています。「美し国おこし・三重」、新県立博物館等、知の拠点整備とネットワークづくり、そして「高度部材イノベーションセンター」等、知識集約型産業構造への取組などの重要な政策課題を、責任を持って進めていく決意です。

それには、皆さんの元気、職場の活性化が、とりわけ重要となりますので、まずは一人ひとりが、風通しの良い、活力ある職場づくりに積極的に取り組むよう、心してください。

○経営品質向上活動のさらなる活性化

折しも本年度は、本県が経営品質に取り組み始めて、ちょうど10年目にあたります。

このところ、本県の経営品質向上活動は、「率先実行大賞」の充実など、徐々に成果を出しつつあると感じていますが、私は、この10年という節目を機に、これをさらなる発展段階に高めていきたいと強く考えています。

そのためにも、「職員一人ひとりの行動基軸」の意味を、今一度問い直してみてください。

「行動基軸」は、私と職員の方々とで共有する最も大切な価値観、そして判断基準です。判断に迷う時、意見が分かれる時は、「行動基軸」に立ち戻って考えてください。「行動基軸」から導かれた判断や意見が、県として最も正しい選択になるはずです。

そして、この「基軸」に沿って、各部局・各職場が、独自の発想で、創意工夫あふれる経営品質向上活動を、自主的に展開してください。県政は、職場により顧客も仕事の進め方も異なります。各職場が自分たちに応じた経営品質を実践することが、経営品質の新しいステージの創造につながるものと、私は確信しています。

未来志向の三重県政が、その価値を県民の方々に実感していただけるかどうかの正念場が訪れています。

職員の方、熱意を持ってともに「行動」し、未来へのチャンスを切り拓こうではありませんか。

1 職員一人ひとりの行動基軸

① 信頼される公務員をモットーにします。

法令を遵守し、「公平・公正・透明」を基本に、誰のため、何のための県政かを常に素直に考え、感性を高め、県民の皆様の要望や意見に、真摯に対応します。

② 対話を促進します。

笑顔の対話を職場の風土とし、チームワークを高めます。一人ひとりの気づきと納得に基づき、率先実行取組を着実に実行します。

③ 工夫して不断の改善に努めます。

常に求めて学び、互いに切磋琢磨します。これまでやってきたことに批判眼をもって取り組み、日常業務において不断の努力を積み重ね、改善していきます。

特に、幹部職員は、常に使命を自任し、職員の先頭に立って情熱と勇気・気概を示すと共に、所管する組織の行政能力を最高に発揮できるようリーダーシップを果たします。

また、この行動基軸の定着の第一歩として、全職員があいさつ、整理整頓を励行し、明るい職場づくりに努めます。幹部職員はそれを率先垂範します。

2 平成20年度の政策展開にあたって

○社会のあり方、国の「かたち」

今、社会のあり方、この国の「かたち」についての議論が活発になろうとしています。社会の中のひずみ、各種の格差や地方の疲弊など、この国のあり方に係る諸課題が山積しています。

私は、社会のあり方を考えるにあたっては、経済合理性や効率性の追求を基本とする市場経済の考え方だけでなく、むしろ基本的視座としては、人と人、人と地域、人と自然の関係を大切にする「共生」の考え方に基づき、地域への誇りや愛着、家族や地域社会の「絆」を育んでいくことが重要であると考えています。

そして、「ニア・イズ・ベター」の考え方を基本に、地域のことは地域が主体的に決めることのできる地域主権の社会が、この国の求められる「かたち」であると考えています。

○「文化力」の具体化

私が提唱している「文化力」の考え方は、このような「共生」や「絆」の考え方を大切にして、三重の人や地域を育み、県民の皆さんの「生活の質」を高めようとするものです。

平成20年度は、この「文化力」を具体的な形にする代表的な取組として、「美し国おこし・三重」と新県立博物館の整備に取り組みます。

「美し国おこし・三重」は、特色ある地域資源を生かした地域づくりを基本に、多彩な催しを展開することにより、地域の魅力や価値の向上を図り、自立・持続可能な地域づくりへとつなげようとするものです。市町をはじめ多様な主体の皆さんとともに、「美し国」のすばらしい舞台を磨き上げ、発信し、三重を元気にする取組をスタートさせます。

新博物館の整備は、未来の三重づくりのための投資であり、三重の「文化力」を高めるための拠点づくりでもあります。次代を担う三重の子どもたちが夢や希望を持ち、将来を切り拓くきっかけとなる場であり、また、県民の皆さんが三重の魅力を再発見し、愛着と誇りを育むとともに、三重の魅力を未来に向けて発信していく拠点にしていきたいと考えています。

○持続的な経済成長

一方、県民の暮らしを支えるためには、持続的な経済成長も必要です。

本県経済は、平成16、17年度の実質経済成長率が、2か年連続して全国1位になり、18年度も8.6%の高い伸びを示すなど、好調に推移してきました。

しかし、産業分野や業種、規模、あるいは地域の経済情勢をみると、依然として格差がみられ、加えて、原油・原材料価格の高騰や、米国のサブプライム住宅ローン問題など県内経済への影響が懸念されるどころです。

今後、地域の持つ特性や資源を生かすなど、地域の実情に応じた取組を進めることにより、県域全体の活性化を図っていきます。

また、持続的な経済成長を可能にするためには、付加価値の高い製品づくりや研究開発の拠点整備を進め、知識集約型へと産業構造を転換することが重要です。その一環として、3月、四日市市に開所した「高度部材イノベーションセンター」を拠点に、素材・部材を提供する川上産業と、加工組立を行う川下産業、あるいは大企業と中小企業との連携を図るとともに、国内外の研究機関や研究者とのネットワークを築き、高度部材産業クラスターの形成をめざしていきます。

○「みえの舞台づくりプログラム」の進化

以上、主要な三つの取組について申し上げましたが、平成20年度は、「県民しあわせプラン・第二次戦略計画」の2年目にあたります。32本の重点的な取組をはじめ各施策の着実な推進が必要であり、取組の一層の本格化と効率的、効果的なマネジメントに取り組んで下さい。

特に、「みえの舞台づくりプログラム」は、多様な主体の参画のもとで進化させていくプログラムであり、県民の皆さんとの議論を通して創意工夫を行い、果敢にプログラムの進化にチャレンジして下さい。